

1. 亀田総合病院における放射線科の働き方改革

町田 洋一 / 中港秀一郎 亀田総合病院放射線科

亀田総合病院放射線科では、勤務時間の短縮や勤務地の柔軟化(テレワーク)、タスクシフティングなどを行い、労働環境の改善に努めている。本稿では、当院におけるこれらの取り組みについて紹介し、働き方改革が職場満足度などに与える影響について考察する。

亀田総合病院放射線科における働き方改革の取り組み

当院では以下の事項について、働き方改革に準じた取り組みを行っている。

1. 勤務時間の短縮、勤務地の柔軟化(テレワーク)
 2. タスクシフティング
- ### 1. 勤務時間の短縮、勤務地の柔軟化(テレワーク)

亀田グループ放射線科では、2013年より遠隔画像診断を推し進めてきた。その経緯を以下に概説する。

1) 2013年：東京都中央区に「亀田京橋クリニック」開業

東京都中央区に新設された複合ビル「東京スクエアガーデン」4階に、亀田総合病院の都内サテライトとして、亀田京橋クリニックを2013年に開業した。画像診断医師にとってもアクセスが容易という理由で、同放射線科を、グループ内関連施設の診断・検診も行う部署と位置づけし、事業所間をつなぐ遠隔読影を開始した。

2) 2018年：診療報酬改定に合わせた読影体制の整備と京橋遠隔画像診断センター開設

2018年4月の診療報酬改定で、週3日かつ24時間以上の勤務を行っている場合、自宅などの当該保健医療機関以外での読影も画像診断管理加算を算定できるようになった(2020年の改定で24時間→22時間に改定)。常勤医師条件の緩和に伴い、遠隔読影の主幹を亀田京橋クリニックから亀田総合病院に移行する一方で、東京スクエアガーデンの6階に遠隔デジタル画像診断センターを新設した。

3) 2020年：新型コロナウイルス緊急事態宣言に合わせたテレワーク強化

先述のように、当放射線科では遠隔読影についての環境を整備したが、コロナ禍をきっかけにその体制を強化することとなった。「新型コロナウイルス感染

症対策分科会」の提言に基づき緊急事態宣言の発令が議論される中、都道府県間や都内での移動制限の可能性を受けて、緊急的に自宅端末など、テレワークに必要な設備を増強した(図1)。

現在、グループ内の大部分の施設において遠隔読影体制を構築している(図2)。

使用している各種設備は以下のとおりである。

- ・事業所間の回線：イーサネット(NTT ビジネスイーサ ワイド)。
 - ・自宅などの遠隔読影：VPN(virtual private network)
 - ・ワークステーションなど、端末限定的な一部機能については、リモートデスクトップを使用して共有する場合もある(図3)。
 - ・連絡、コミュニケーション手段：業務用スマートフォン、Microsoft Teamsによるチャット(図1)やビデオ通話(図4)
- 上記のような経過で遠隔読影やテレ



図1 2020年3月31日当時のMicrosoft Teamsによるチャット連絡先に構築していたテレワーク体制を受けて、緊急の移動制限に対し迅速な対応が可能であった。(プライバシーのため、画像の一部を加工)